

次世代のなし栽培法「盛土式根圏制御栽培法」

盛土に苗を植付け、樹の成長に合わせた養水分管理を行う栽培法により、改植時の早期成園化と高品質多収化を達成する栽培法

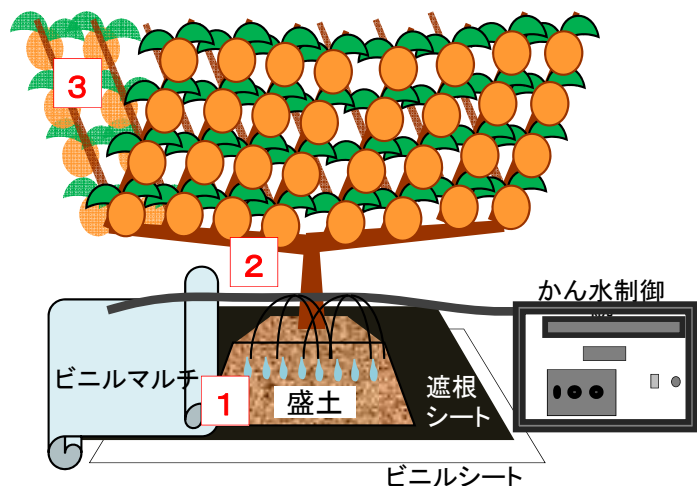
研究開発の背景

- ・ニホンナシで昭和40～50年代に植え付けられた樹では生産量が激減しており、生産性向上のためには改植が必要である。
- ・改植をすると移植前の所得に回復するまで十年程度が必要なこと、紋羽病の再発が懸念されること等により改植が進まない。

研究成果の内容

盛土に苗を植え付けて根圏の養水分を制限管理して早期多収を実現する栽培法

1. 地面にビニル、遮根シートの順に敷いた上に赤玉土とバーク堆肥を2:1混合の培土を盛り、苗を植付ける。
2. 灌水は、ドリップ法で実施し、植物の生育に合わせて養水分を供給。
3. 仕立て法は、2本主枝一文字仕立てとし、結果枝を約45度に誘引。
4. 栽植本数は10aあたり200本とし、樹間2.0m、列間2.5mとする。



マニュアル

<http://www.agrinet.pref.tochigi.lg.jp/nousi/singijutu/singi18.pdf>



導入メリット

早期に優れた多収性を実現

1. 早期多収
 - ・移植の翌年に結実し、4年目の収量は慣行成園に比べて**1.7倍**(3戸の現地実証結果より)。
2. 高品質
 - ・糖度が**1%**程度向上。
3. 紋羽病回避
 - ・盛土を地面から隔離するため、**紋羽病に罹病しにくい**。
4. 作業の効率化
 - ・樹を列状に配置することで、作業時間が年間**1～2割**削減(摘果器具等を利用すると**2～3割**削減)。

期待される効果

- ・本栽培法の導入により、早期多収で高品質な果実を生産できるため、所得向上が期待される。
- ・単純な樹形で高度な技術を必要としないため、新規就農・参入や雇用労働の活用が可能。

導入をオススメする対象
改植・新植を志向するニホンナシ農家等

開発機関：栃木県農業試験場、三重県農業研究所、三共包材(株)、(株)S.K.アグリシステム、栃木県経営技術課 予算区分【県単独事業・革新的事業】